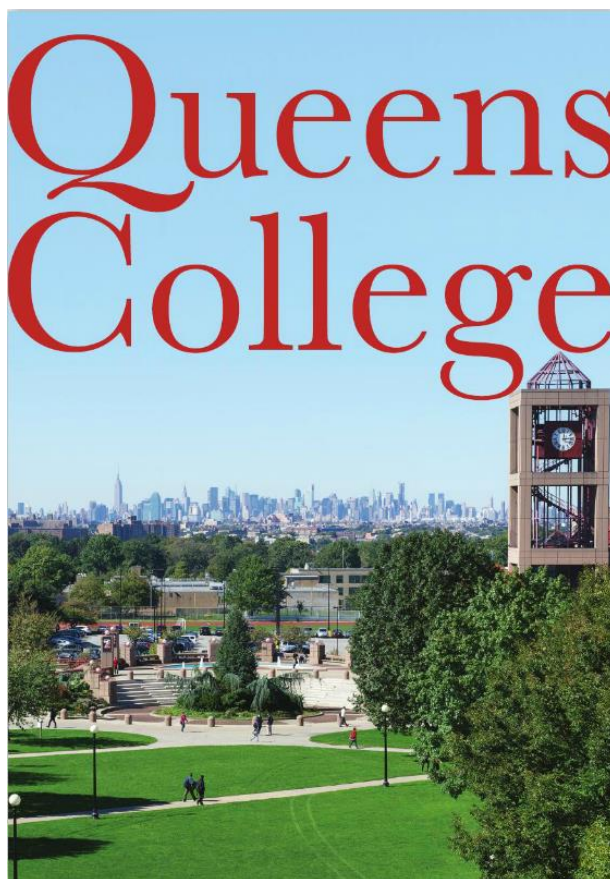


豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構

QC だより

(第 5 号 平成 26 年 11 月 4 日)



■ 主要活動報告

研修活動報告 第3号

—夏季英語集中コース—

豊橋技術科学大学 笹野順司

夏学期の ELI (English Language Institute) 英語集中コースは、7月7日から6週間、月曜から木曜の週4日間のスケジュールで実施されました。7月3日に行われたプレテストの成績に従って、7段階のレベルにクラス分けが行われましたが、その結果は、講座開始初日に廊下に張り出され、私は何とかレベル7に入ることができました。全体の人数にもよりますが一クラスあたり15名程度(レベル7のみ8名)の学生で構成されています。1日あたり3時間の講義が2科目あり、講義科目は、ライティング、リーディング、および、スピーキング・リスニング×2の合計4科目を4名の先生方に担当していただきましたので、各科目が週に2回ずつ行われるという時間割でした。

まず、最初の週の感想は、とにかく今まで聞いたことのない量の英語を浴びたなということでした。先生にもよるのですが、私のクラスにはとにかく話のスピードの速い先生が2名いて、この先やっていけるのか心配になりました。さらに、私ともう一名の高専の先生以外は全員アジア圏(韓国、中国、香港)から来ている若い学生達でしたが、皆英語が達者でしたので、周りのレベルの高さに圧倒されました。ただし、英語によるコミュニケーションの利点の一つとして、彼らとは年齢の差を気にせず、純粋にクラスメートとしてのつながりができたことが大変うれしい経験でした。

ライティングの授業ではエッセイ(小論文)を書くことが主な目的でした。毎週テーマとなる記事を渡され、その内容についてグループで意見を交換し、そこで出た様々なアイデアを基に、各自でエッセイを書く宿題が課されました。記事の中には同性婚についてのテーマなどがあったのは、日本と違うところだなと思いました。

リーディングの先生は非常に特徴的な方で、とにかく今まであまり聞いたことのないような独自の文法理論で文章解釈を講義されていました。例えば、「過去形は単に過去の事柄を表すだけではなく、現実との乖離を意味する」とか、「ネイティブスピーカーは常に物の数(単数・複数)で頭がいっぱいになっているんだ」とか、「時制とタイムフレーム(話している事柄の属する時間枠)は違うんだ」とか、かなり難解な概念でしたが、なるほどと思うことがたくさんありました。宿題は授業で読む文章の予習以外にも、New York Timesの記事の要約とそれに対するコメントの記述、単語ドリルなど、かなりの分量に上りました。スピーキングとリスニングについては、これらがセットになった科目が2科目あり、2名の先生方に教えていただきました。一方の講義では、イディオムを習ったり、リスニングのトレーニングをやったり、他の学生とペアを組んで互いに質問し合ったり、実践的なコミュニケーションスキルを磨きました。特に、この互いに質問および回答をするレッスンを通じて、他のクラスメートのことをよく知ることができて、互いの結びつきを強くするのにつながったように思います。この先生の授業で課された一番大きな課題は、各自の大事なもの(Cherished Item)について5分程度で紹介するというものでした。私は叔母からもらった愛用の腕時計について語りましたが、他のみんなもそれぞれの大切な物とそれにまつわるエピソードを紹介して、それぞれの人間性を知る非常に楽しいアクティビティ

イだったと思います。

もう一方の講義では、ディベートとリスニングを主に行いました。ディベートでは、あるテーマに対して賛成と反対の二グループに分けられ、互いに意見を述べ合うということを行いました。自分の意見と異なるグループに入れられたときは、無理やり意見を絞り出さないといけないので大変でした。リスニングは主に動画を見てその内容に関する質問に答えるというものでした。ここで用いられた動画は主に **New York Times** の **One in 8 million** というウェブ



愛用の腕時計についてプレゼンする私。

サイトのもので、ニューヨークに住む様々な人物を取り上げて、その人達が自分の思うことについて語るというような内容です。語っているのが一般の人ですので、アクセントや話す速さなど、非常に多様な話し方に対応して聞き取ることが目的でしたが、あまりにも難しすぎて半分も聞き取れませんでした。こちらの授業でも最後の方でプレゼンテーションの課題が与えられました。テーマは何でもよく、自分の国の紹介や趣味の紹介など様々でしたが、私は世界的にもっとも有名な日本人の一人であるオノ・ヨーコさんについて語りました。クラスメートの年齢層が若かったため、ビートルズすら知らない子がいてまいりましたが、この発表の後は興味を持ってもらえたようです。

また、以上の通常授業に加えて、いくつかの課外授業も行われました。そのうちの一つは映画観賞で、ニコラス・ケイジ主演の「天使のくれた時間」という作品を英語字幕付きで見ました。家族の大切さを感じさせる非常に良い映画で、私も家族がほしくなっていました。もう一方の課外授業では、グリニッジビレッジのジャズバーに行きました。その日は、**Sylvia Cuenca Quartet** の演奏が行われていて、とてもかっこよかったです。他のクラスではブロードウェイミュージカルの **Rocky** を観に行ったそうです。ニューヨーク文化を実際に体験することが英語力向上の一番の近道というのは **ELI** の先生方共通の意見でした。

最初はやり通せるのか不安に思ったこの集中コースも、6週間後にはあっという間に過ぎ去ったように感じました。最終日には修了証が渡され、中庭で各自が持ち寄った食べ物を囲んで、すべてのクラスの学生と先生が集まって、ささやかなパーティーが開かれました。生活すべてが学生に戻った6週間でした。

学生のような交流研究員のような

岐阜高専 坂本淳

7～8月はELI (English Language Institute) による英語のトレーニングがメインでしたが、9月に入り専門科目の受講と研究の遂行がメインの生活にシフトしましたので、本稿ではその点について紹介しようと思います。

まず専門科目についてですが、今年度は各教員、単位取得のための科目、聴講のための科目をそれぞれ1科目受講しています。私はGeneral Introduction to SociologyとMethods of Social Researchの2科目を選択しました。両講義の第一印象ですが、事前にある程度想定していたことではありますが、説明や議論のスピードについていくのが大変です。我々はノンネイティブであるため、ボキャブラリーが少ないというハンディキャップがありますので、議論で自分が知らない単語や表現が出てきた時に、ある程度その意味を予想しなければ議論についていくことができないということです。ELIの受講者はレベルにもよりますが、英語のトレーニングを目的として受講している学生ですので、講師も学生が英語を理解できているのか顔色や反応を見ながら丁寧な説明が展開されるのですが、専門科目の講師陣はその点を気にしなくてよい訳です。このため、講義中の私の頭の中は常に「現在何を議論しているのか？」をイメージすることになります。大変なのが、自分の想定していた議論のイメージと実際の議論がかい離する時です。そういう時には慌てて頭の中を整理する必要があります訳ですが、その時既に議論が終了している場合はもう手遅れになります。当たり前のことができない歯がゆさがありますが、その点を我々が既に習得している専門能力でカバーしていければと思っています。

次に研究についてですが、各教員が自分の専門分野に近いQueens Collegeの教員と共同で研究を進めることとなります。幸い私は個別のゼミ室が与えられ、静かな環境で研究することができています。ただ8月までは英語のトレーニングと宿題に追われる毎日でしたので、実質4か月しか研究する時間がありません。何とか種をまく段階まで持っていくことができればということは現在の希望です。

最後に、講義では前述のような状況ですので、英語のトレーニングも継続して行っています。私の日常的なメニューは、英語のドラマ・映画の聴講、英会話、日記、新聞購読になります。この年齢になって再度集中して勉強することができる貴重な機会ですので、後悔しないよう、日々を大切に生活していきたいと思っています。



写真1 専門科目の授業風景



写真2 研究室の風景

サラダボウル

東京高専 水戸慎一郎

9月に入り、秋学期が始まりました。私は、線形代数と基礎物理を受講しております。内容は日本と同じでも教え方に差異があり、面白く感じています。私の受講科目は、どちらも基礎なので、アメリカの授業として想像する議論ベースのものではありません。復習、問題提示、解法の紹介、演習問題を解く、というサイクルを回していく授業です。このうち、演習問題は宿題により行います。演習問題の質と量が授業の成果に大きく影響するためか、演習問題の充実した、高額（150ドル前後）な教科書を指定されます。この教科書の値段はやはり問題なようで、リースや中古の教科書が広く使われています。復習としては、宿題で解いた演習問題の解説が行われます。授業では各範囲の基礎しか教えないので、演習問題を解くには応用力が求められます。そのため、授業の最初に行う解法の解説が重要になります。ただし、解法の説明をするのは、学生から質問の出た問題のみです。また、ここまで良い？（Good so far?）という確認をよく聞かれるのですが、ここで質問が出ないと授業はどんどん進んでいきます。こういった様子を見ていると、日本よりも学生に学ぶ姿勢が求められており、それを引き出す授業になっているという印象を受けます。

週に2回、ELI(English Language Institute)の夜間クラスを受講することになりました。7,8月に受講した通常クラスは学生が多かったですが、夜間クラスは社会人が多く参加しています。散髪屋をしている韓国系ウクライナ人、コロンビアから来たマッサージ師、ネイルサロンをしている中国人、小説家、経営者、幅広いバックグラウンドを持った人達で、ニューヨークの多様性を実感します。Queens College が位置する Queens 区は、世界で最も多様な民族が住むエリアの1つなので、ちょっと買い物に出かけるだけでも民族や文化の多様性に触れることができ、非常に興味深いです。右下の写真は、大学に近い飲食店ですが、メキシコ、日本、ハラル料理が隣り合っています。こういった状況を、人種のるつぼ (Melting pot) と呼んだそうですが、実際は共存しているものの溶けあってはいないので、近年ではサラダボウルと表現されるようです。こうした多文化共存の利点や問題点も、学んでいければと考えています。



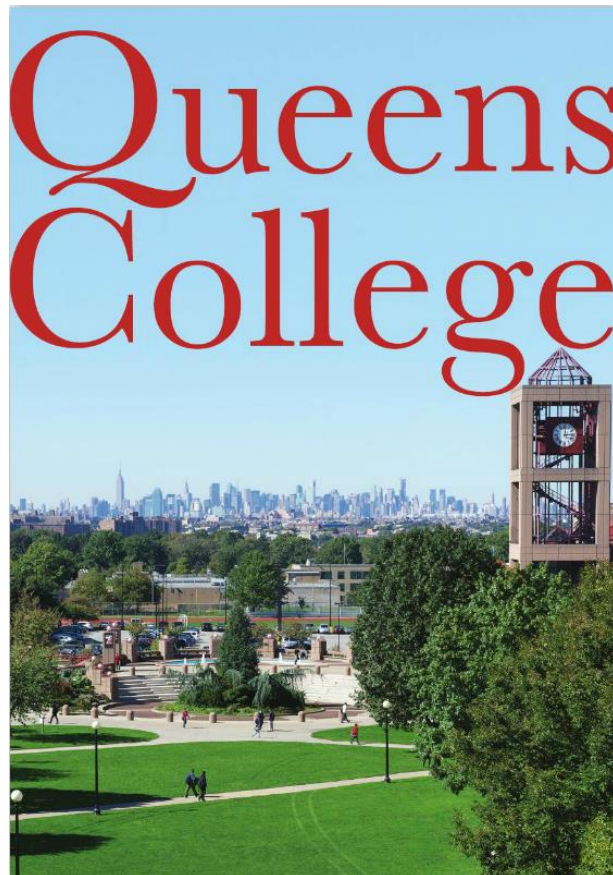
大学近くの飲食店

豊橋技術科学大学
グローバル工学教育推進機構
国際教育センター
愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘 1-1
Tel:0532-81-5161
Mail:unireform@office.tut.ac.jp

**Toyohashi University of Technology,
Institute for Global Network Innovation in
Technology Education**

News from QC

(Vol.5 2014/11/4)



■ Reports

Activity Report vol. 3

–Intensive English Course in Summer Semester–

Junji Sasano, Toyohashi University of Technology

ELI (English Language Institute) Intensive English Course in summer semester had been conducted from Monday to Thursday every week for 6 weeks from July 7th. According to the remarks in the placement exam held in July 3rd, all students were classified into 7 levels, and I was assigned to Level 7. Each class consists of about 15 students (8 students only for Level 7). There were 2 classes of 3 hours each day, and 4 teachers taught 4 classes, i.e., writing, reading, and two speaking and listening classes, respectively. So each class was conducted twice a week.

First of all, my impression of the first week was that I had listened to a lot of English words which I had never experienced. Since two teachers among them spoke very fast, I got worried if I could manage to keep up with the classes. Moreover, other students apart from me and another teacher from KOSEN were young and all from Asian countries; however, their proficiency in English was very high, so I was completely overwhelmed. I felt that one important advantage of communication in English was that I was able to establish a good friendship with my classmates without caring about the difference in our ages; this was very pleasant experience for me.

The main purpose of the writing class was essays. Articles concerning the topics to be discussed in the essays were handed out every week, and we discussed about the topics in groups, then we wrote essays as assignments based on the ideas talked in the group discussion. I felt that it was very different from Japan that there were topics such as same-sex marriages, which are not usually treated in Japanese schools.

The teacher of the reading class was very unique man, because his explanation was based on his unique grammatical theory which I had never heard. For example, “Past tense expresses not only the events happened in the past but also the separation from reality,” “Native English speakers are always obsessed with numbers (singular/plural),” or, “Tenses and Time Flashes are different concepts,” he said. Though they were very difficult to understand, a lot of ideas which I could really appreciate and admire were included in his words. The amounts of the assignments of his class were huge. They were not only the preview of the articles used in the class but also summarizing articles of New York Times and writing my opinions about them, vocabulary learning, etc.



A picture of myself giving a presentation about my watch.

As for the speaking and listening classes, there were two classes taught by two

different teachers. In one class, we trained practical communication skills through the studies of idioms, listening comprehensions, and asking questions and answering to them in pairs with other classmates. Especially, I think, this questioning-and-answering practice helped us to know well each other and to strengthen our friendship. The biggest event in this class was a presentation about our cherished items. I talked about my watch which my aunt gave to me. Other students also presented their cherished items and relevant episodes. So, this was a very fun activity such that we could know the other students' personalities.

In the other class, we mainly trained debating and listening skills. In the debating practices, we were separated into two groups of the pros and cons of the given topics, and then we debated. It was very tough for me to find out reasonable ideas when I was assigned to the group opposite to my own opinions. In the listening practice, we answered to some questions after watching short movies. The movies used in this activity were picked mainly from "One in 8 million" in the web site of New York Times. The main purpose of this practice was to listen to what general citizens were talking with their various accents and speaking paces; however, I could only understand less than half of the contents. We also gave presentations in this class. We were allowed to choose any topics we wanted. So, I was talking about Yoko Ono, who is one of the most famous Japanese. Though I was upset because a student didn't even know The Beatles, she seemed to get interested in them a bit after my presentation.

In addition to these regular classes, some special classes were held. One of which was watching a movie, *The Family Man*, with English subtitles. Since the movie was such as to remind us the importance of family, I felt like wanting my own family. The other activity was going to a jazz club in Greenwich Village. At that day, Sylvia Cuenca Quartet was performing, which was attractive so much. Other classes went see *Rocky the Musical* on Broadway. Every teacher in ELI often said that experiencing the culture of New York is the shortest way for us to improve our English ability.

I felt that the 6 weeks had passed quickly though I worried if I could go through this intensive course at first. In the last day, we obtained diplomas, and a party was held in the courtyard where the students and teachers of all classes gathered with some foods and drinks. All of my life in the 6 weeks brought me back to my old school days.

Student? Researcher? Mixed Emotion

Jun Sakamoto, National Institute of Technology, Gifu College

We, TUT and National Institute of Technology members, finished taking the summer English training course in mid-August, and our lifestyle has changed drastically as a result of taking new college courses and starting research works.

Presently, each member is taking two college courses: one course for credit and one course for observation. For example, I am taking General Introduction to Sociology for credit and Methods of Social Research for observation. As I expected, my first impression of each course was negative because it was hard to follow what the teachers were saying. This course is absolutely different from the summer English training courses that I took in the ELI. In particular, teachers in the English courses spoke clearly, in addition, sometimes, they asked us questions about whether we understood the English or not because the purpose of the class was to improve our English. However, in the specialized courses, professors are not concerned about our understanding the material. Since I don't have much vocabulary, when I encounter an unknown word, I cannot keep up with the class. Therefore, if I misunderstand what they are saying, I'm having trouble keeping up with the material covered in the class, but if the discussion already finished, it is too late.

Each members are also doing research works with a professor in Queens College. Fortunately, my professor gave me my own laboratory, I could be studying in a good environment. However, I have only four months to do, I hope to achieve a good relationship with the NY researchers.

The most important task is to improve English skills. Every day, I am watching drama with no subtitle, doing free conversation, writing diary, reading newspaper in English. This year is special and precious for me, then, I would like to spend every minute of every day.



Fig. 1 class in session



Fig.2 My laboratory

Salad bowl

Shinichiro Mito, National Institute of Technology, Tokyo College

The fall semester has been started from the end of August. I am taking Linear Algebra and Principle of Physics. Despite same Topics, I am interested about differences of teaching method. Because I take fundamental subjects, the classes are not student centered. Teachers are making circle of review, problem presentation, solution, and exercise. Students should do a bunch of homework as a part of exercise. A text book is fill with many good exercises and very expensive (around \$150), perhaps because a quality of exercises and textbook is significantly influential to achievement of the learning. Of course, the price of textbook is problem. Students often use the leased textbook or used textbook. In a review, teachers explain the solution of problems that have been given as homework. Because a only fundamental knowledge was described in previous class, review is important. However, a teacher explains the only problems that are asked by students. In addition, I often hear “Good so far?” than Japan. Subjects are move on to next part if there are no questions. It seems that students are required active attitude toward learning, and a class is designed for encouraging the student’s participation.

I decided to take an ELI (English Language Institute) evening class twice a week. A day class that I took in July and August was mostly occupied by college student. In contrast, majority of evening class is salaried person. The students of evening class have various backgrounds; for instance, Korean Ukrainian barber, Colombian physical therapist, Chinese nail salon owner, novel writer, and Business manager. In this class, I strongly realize a cultural and ethnic diversity of New York. Queens College is placed in Queens which is most ethnically diverse urban area in the world. Therefore, I can see many cultural things and immigrants by just working around. The photo on the lower right shows a nearby street lined with Mexican, Japanese, and Halal restaurants. Such situation was called as Melting pot. But in recent years, it is called as Salad bowl, in which different cultures mix, but remains distinct in some aspects. I want learn the merit and demerit of multicultural society.



Restaurants near the University

Toyohashi University of Technology
Institute for Global Network Innovation in Technology Education
Center for International Education
1-1, Hibarigaoka, Tempaku-cho, Toyohashi, Aichi, Japan
Tel:+81-532-81-5161
Mail:unireform@office.tut.ac.jp